第Ⅱ編　人間としての自覚と生き方

1　ギリシア思想　人生における哲学

整理・要約

１　ギリシア思想の流れ

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 神話の世界 | 自然哲学 | ソフィスト | ポリスの哲学 | ヘレニズム時代の思想 |
| ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』ヘシオドス『神統記』 | タレスヘラクレイトスエンペドクレスデモクリトスピュタゴラス | プロタゴラスゴルギアス | ソクラテスプラトンアリストテレス | ストア派ゼノン└コスモポリタンエピクロス派エピクロス新プラトン主義（プロティノス，3世紀） |

２　万物の根源（アルケー）の探求

＊自然哲学…自然の生成変化とその秩序に注目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| タレス | 水 | 自然哲学の祖，「万物の根源（アルケー）は水である」 |  |
| アナクシマンドロス | 無限なもの | 質的にも量的にも限定されない無限なもの | ミレトス学派 |
| アナクシメネス | 空気 | 永遠に循環する空気 |  |
| ピュタゴラス | 数 | 宇宙の調和と秩序の根源，教団をつくり魂の浄化を求める |  |
| ヘラクレイトス | 火 | 「万物は流転する」，弁証法の祖 |  |
| エンペドクレス | 土・水・火・空気 | 愛と憎しみによって離合集散する。多元論 |  |
| デモクリトス | 原子（アトム） | これ以上分割できない微小な物体的存在，唯物論的な考え |  |

＊エレア学派…論理的思考を展開（プラトンに影響をあたえる）

|  |  |
| --- | --- |
| パルメニデス | 「在るものは在り，在らぬもの（無）は在らぬ」（存在一元論），存在は生成消滅しない |
| （エレアの）ゼノン | 「アキレスと亀」などのパラドックス（逆説）を用いて，運動の可能性を否定 |

３　ソフィスト：政治的知識，弁論術などを教える職業的教師（のちに詭弁家といわれる）

|  |  |
| --- | --- |
| 　プロタゴラス | 「人間は万物の尺度である」，相対主義・主観主義 |
| 　ゴルギアス | 懐疑主義（客観的真理の否定）→真理の相対化 |

４　ソクラテスの思想

|  |  |
| --- | --- |
| 魂（プシュケー）への配慮 | 魂ができるだけすぐれたものになるようにすること |
| 無知の知 | 自分が何も知らないということを知ること→真の知への探求 |
| 問答法（助産術） | 問答（対話）をくり返すことにより，相手に無知を自覚させ，真の知へ向かわせようとする方法 |
| 知徳合一，知行合一，福徳一致　　　　　　└主知主義 | 知とは何が徳（アレテー）であるかを知ることであり，真の知は行為へと結びつき，幸福を実現できる |
| 善く生きること | ●「ただ生きるのではなく，善く生きることである」●善く生きることは正しく生きること（正義） |

５　プラトンの思想

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 　イデアの世界 　（イデア界）　　　↑

|  |
| --- |
| エロース…イデアを求める心情アナムネーシス…イデアを想起 |

　　　↑　現実の世界 　（現実界）　●二元論的世界観 | 魂の三分説 | 四元徳 | 国家の三階級 |
| 理性 | 知恵 | 統治者階級 |
| 気概（意志） | 勇気 | 防衛者階級 |
| 欲望（情欲） | 節制 | 生産者階級 |
| 理性による気概と欲望のコントロール→理想的な人間 | 正義知恵・勇気・節制の調和された状態 | 理想国家↓哲人政治 |

６　プラトンとアリストテレス

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | プラトン | アリストテレス |
| 立場 | 理想主義 | 現実主義 |
| 著作 | 『ソクラテスの弁明』『饗宴』『国家』 | 『形而上学』『二コマコス倫理学』『政治学』 |
| 普遍的な真理 | イデア論（善のイデアが最高）●エロース，アナムネーシス（想起） | 形相（エイドス）と質料（ヒュレー）●素材となる質料とそれに形を与える形相 |
| 二元論的世界観…イデア界と現実界 | 目的論的世界観（一元論） |
| 愛 | エロース | フィリア（友愛）…善き人の幸福を求める愛 |
| 魂 | 魂の三分説…理性・気概（意志）・欲望 | 理性的領域と感情・欲望的領域 |
| 徳 | 四元徳●知恵 ●勇気 ●節制 ●正義 | 知性的徳…知恵や思慮などに即した徳習性的徳（倫理的徳）…知性的徳に導かれた正しい行為の繰り返しにより実現→中庸 |
| 正義 | 知恵・勇気・節制の徳が調和されたときに正義が実現 | 　全体的正義…ポリスの法を守る　部分的正義…財貨の分配や交換における公正　　　||●配分的正義…能力や業績に応じて配分●調整的正義…各人を等しく扱い過不足を調整 |
| 国家（政治形態） | 理想国家哲人政治…哲学者が統治者になるか，統治者が真に哲学することが必要 | 現実の政治形態のそれぞれの長所・短所を考察「人間は本性上，ポリス的動物である」→正義と友愛（フィリア）の重視 |
| 後代への影響 | 新プラトン主義…プロティノス教父哲学…アウグスティヌス | スコラ哲学…トマス＝アクィナスイスラーム哲学…イブン＝ルシュド |
| 学園 | アカデメイア | リュケイオン |

＊プロティノス…一者（ト・ヘン）が存在し，すべては一者から流出し，一者と一致する生き方が幸福である。

７　ストア派とエピクロス派

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ストア派 | エピクロス派 |
| 開祖 | （キプロスの）ゼノン | エピクロス |
| 思想 | 禁欲主義，情念（パトス）を抑えること | 精神的快楽主義　刹那的肉体的快楽には消極的 |
| 理想状態 | アパテイア（動揺のない心） | アタラクシア（心の平静） |
| 信条 | 「自然に従って生きよ」世界市民（コスモポリタン）として生きる | 「隠れて生きよ」 |
| 学園 | ストア‐ポイキレー（彩画柱廊）での講義 | エピクロスの園 |
| 後代への影響 | キリスト教，自然法思想 | デモクリトスの唯物論 |

８　ギリシア思想の基礎用語

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| フィロソフィア | 知への愛，愛知 | エイロネイア | 皮肉 | スコレー | 閑暇，ひま |
| ロゴス | 理性・論理 | ドクサ | 独断（ドグマ） | ポリス | 都市国家 |
| テオーリア | 観想・理論 | イデア | 理想・理念 | エイドス | 形相 |
| パトス | 情念 | エロース | イデアへの憧れ | ヒュレー | 質料 |
| エートス | 習性 | アナムネーシス | 想起 | メソテース | 中庸 |
| アレテー | 徳 | フィリア | 友愛 | アパテイア | 動揺しない心 |
| アルケー | 根源 | ハルモニア | 調和 | アタラクシア | 心の平静 |
| プシュケー | 魂 | カロカガティア | 調和的な人格 | エウダイモニア | 幸福 |
| ピ（フ）ュシス | 自然 | コスモス | 秩序 | ディアロゴス | 対話・問答 |
| ノモス | 法・社会制度 | コスモポリス | 世界国家 | ミュートス | 神話 |

演習問題

問１　〈自然哲学者〉世界の根源を探究した古代ギリシアの思想家についての説明として最も適当なものを，次の1～4のうちから一つ選べ。（2021・②・本・５）

1　ヘラクレイトスは，この世界は常に不変不動であり，そこには静的な秩序が維持されていると考えた。

2　ヘラクレイトスは，この世界は絶え間なく運動変化しており，そこにはいかなる秩序も存在しないと考えた。

3　ピタゴラス（ピュタゴラス）は，この世界には調和的な秩序が実現されており，そこには調和を支える数的な関係があると考えた。

4　ピタゴラス（ピュタゴラス）は，この世界は無秩序であることを特徴としており，そこには調和は見いだせないと考えた。

問２　〈知恵〉知恵について述べた次の文章を読み，文章中の　a　～　c　に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の1～8のうちから一つ選べ。（2017・追・13）

　ギリシア哲学では，知恵が徳との関係で多様に論じられている。例えば，ソクラテスは，「人間は万物の尺度である」と主張した　a　のような，知者をするソフィストと，徳について問答することで，真の知恵を求めた。さらに，プラトンは，『国家』において理想的な国家のあり方を問うなかで，魂の徳を論じた。そこでは，知恵が，節制・　b　・正義と並ぶ四元徳の一つとして，統治者に不可欠なものであるとされた。アリストテレスもまた　c　において，人間の優れた働きである，真理の観想や推論的な学問と一緒に，知恵を知性的徳の一つに数えた。このように，真の知恵を求める愛としての哲学は，人間の徳の探究としても，議論の深まりをみせたのである。

1　a　プロタゴラス　　b　勇　気　　c　『ニコマコス倫理学』

2　a　プロタゴラス　　b　勇　気　　c　『クリトン』

3　a　プロタゴラス　　b　寛　容　　c　『ニコマコス倫理学』

4　a　プロタゴラス　　b　寛　容　　c　『クリトン』

5　a　ゴルギアス　　　b　勇　気　　c　『ニコマコス倫理学』

6　a　ゴルギアス　　　b　勇　気　　c　『クリトン』

7　a　ゴルギアス　　　b　寛　容　　c　『ニコマコス倫理学』

8　a　ゴルギアス　　　b　寛　容　　c　『クリトン』

問３　〈無知の知〉自らの知をめぐって，ソクラテスがどう考えていたかの説明として最も適当なものを，次の1～4のうちから一つ選べ。（2014・追・16）

1　自分に何一つ知恵はないが，人間にとって最善のことだけは知っている，と自覚していた。

2　自分が知者だと思い上がらないために，知っていても知らないふりをするべきだと考えていた。

3　自分は大切なことについて知らないので，そのとおりに，知らないと自覚していた。

4　知らないと知っている以上，自分はすべてを知っていることになると考えていた。

問４　〈プラトン〉プラトンについての説明として最も適当なものを，次の1～4のうちから一つ選べ。（2020・本・12）

1　イデアの認識を確実にするのは，理性ではなく，憧れという欲求であると説き，イデアへの憧れにき動かされた魂を，翼を持った一組の馬と御者が天上にする姿になぞらえた。

2　この世に生まれる前は無知であった人間の魂が，この世に肉体を持って生まれたきた後，感覚に頼ることでイデアを完全に知ることができるようになると論じた。

3　感覚的次元にわれた魂を，暗闇の中で壁に映し出された影を真実と思い込む洞窟内の囚人の姿になぞらえ，感覚的世界からイデアへと魂を向け変える必要があると説いた。

4　理想国家のあり方を，理性と欲望が調和した魂の姿と類比的に論じ，そのような国家では，全ての人が哲学を学び優れた市民となることで，統治する者とされる者の関係が消滅すると述べた。

問５　〈イデア論〉プラトンの考え方に合致するものとして最も適当なものを，次の1～4のうちから一つ選べ。（2010・本・８）

1　イデアは個物に内在する真の本質であり，感覚ではなく，知性だけがそれをえることができる。

2　イデアは生成消滅しない真の存在であり，感覚ではなく，知性だけがそれを捉えることができる。

3　イデアは個物に内在する真の本質であり，感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。

4　イデアは生成消滅しない真の存在であり，感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。

問６　〈プラトンの魂の三分説〉プラトンは，魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明した。彼の国家についての思想として最も適当なものを，次の1〜4のうちから一つ選べ。（2005・本・４）

1　一人の王の統治は，知恵を愛する王による統治であっても，つねに独裁制に陥る危険をんでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ，民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。

2　統治者階級は，知恵を身につけ，防衛者階級を支配し，防衛者階級は，勇気を身につけ，生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき，国家の三部分に調和が生まれ，正義が実現する。

3　知恵を愛する者が王になることも，王が知恵を愛するようになることも，いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が，勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき，正義が実現する。

4　知恵を身につけた統治者階級が，防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ，生産者階級に対しては放縦と鈍感を避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

問７　〈アリストテレスのイデア論批判〉イデア論を批判したアリストテレスについての説明として最も適当なものを，次の1〜4のうちから一つ選べ。（2015・本・16）

1　善のイデアを追究する生き方を理想としたプラトンを批判して，善は人によって異なるので，各自が自分にとっての善を追究すべきだと説いた。

2　理性で捉えられるイデアを事物の原型としたプラトンを批判して，事物が何であるかを説明する唯一の原理は，事物を構成する質料であるとした。

3　永遠不変のイデアが存在するとしたプラトンを批判して，すべては現実態から可能態へと発展するのであり，同一であり続けるものはないと述べた。

4　個々の事物を離れて存在するイデアを真の知の対象としたプラトンを批判して，個々の具体的な事物こそ探究の対象とすべきだと主張した。

問８　〈アリストテレスの自然観〉アリストテレスの自然観の説明として最も適当なものを，次の1～4のうちから一つ選べ。（2018・本・14）

1　自然界の事物は，質料に形相が与えられることで成り立っており，事物は質料の実現という目的に向かって生成・発展していく。

2　自然界の事物は，質料と形相とが結び付いて成り立っており，事物は形相の実現という目的に向かって生成・発展していく。

3　自然界の事物は，質料に形相が与えられることで成り立っており，形相がもつ潜在性によって，偶然的で自由な仕方で生成・発展していく。

4　自然界の事物は，質料と形相とが結び付いて成り立っており，質料がもつ潜在性によって，偶然的で自由な仕方で生成・発展していく。

問９　〈愛をめぐる思索〉文章中の　a　～　c　に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の1～6のうちから一つ選べ。（2013・本・19）

　プラトンの説く愛（エロース）が，具体的な美への憧れを経て完全な美そのものの　a　へと向かわせる愛であるのに対して，アリストテレスの説く真の友愛（フィリア）は，　b　のために　c　にとっての善を願い，その実践へと向かわせる愛である。他方，『新約聖書』における愛（アガペー）とは，第一に，無条件にすべての人に与えられる無償の神の愛のことであり，次いで，それによって引き起こされた人間による c への愛を意味する。

1　a　観　想　　b　親しい人　　　c　自　己

2　a　創　造　　b　親しい人　　　c　他　者

3　a　観　想　　b　親しい人　　　c　他　者

4　a　創　造　　b　すべての人　　c　自　己

5　a　観　想　　b　すべての人　　c　自　己

6　a　創　造　　b　すべての人　　c　他　者

問10　〈ストア派〉ストア派のアパテイアの説明として正しいものを，次の1〜4のうちから一つ選べ。（2013・本・12）

1　自然に従って生きることで，魂が完全に理性的で調和したものとなり，欲望や快楽などの情念によって動かされない状態。

2　情念や欲望が理性の命令に聞き従うことで，魂の三部分間のや分裂が克服され，心が全体として理性によって制御された状態。

3　過剰な情念に満たされることと，情念に心が少しも動じないことの中庸として見いだされる，有徳な人間にふさわしい適度な情念をもった心の状態。

4　苦しみや悲しみなどが取り除かれて，心のうちに快楽が得られることによって，魂が浄化された平静な状態。

問11　〈エピクロス〉機械論的自然観の古代における先駆者の一人としてエピクロスがいる。エピクロスの倫理思想の記述として最も適当なものを，次の1〜4のうちから一つ選べ。（2004・本・12）

1　美のほとんどが便宜・効用という観念から生まれるのだから，快楽や苦痛は，美や醜の観念に必然的に伴うだけでなく，美や醜の本質をなす。

2　いかなる快楽をもる人はだし，あらゆる快楽を遠ざける人は逆に無感覚な人になる。私たちは，双方の中庸である節制を目指すべきである。

3　快楽や苦痛は，その強さ，持続性，確実性，遠近性などと，それが及ぶ人々の数を考慮に入れることによって，その総計を計算することができる。

4　私たちが人生の目的とすべき快楽は，者の快楽でも性的な享楽でもなく，身体に苦痛のないことと，魂に動揺のないことにほかならない。

問12　〈ヘレニズムの思想家〉理想的な生き方を考察したヘレニズムの思想家についての説明として最も適当なものを，次の1～4のうちから一つ選べ。（2021・①・本・３）

1　エピクロスは，あらゆる苦痛や精神的な不安などを取り除いた魂の状態こそが，幸福であると考えた。

2　エピクロスは，快楽主義の立場から，いかなる快楽でも可能な限り追求すべきであると考えた。

3　ストア派の人々は，人間の情念と自然の理法が完全に一致していることを見て取り，情念に従って生きるべきだと考えた。

4　ストア派の人々は，いかなる考えについても根拠を疑うことは可能であり，あらゆる判断を保留することにより，魂の平安を得られると考えた。

問13　〈古代ギリシア・ローマの哲学者〉古代ギリシア・ローマにおける哲学者についての記述として最も適当なものを，次の1～4のうちから一つ選べ。（2017・本・16）

1　ヘラクレイトスは，万物の根源を火であるとしたうえで，「万物は流転する」と唱え，その絶えず変化する様子に法則性は認められず，調和した秩序は見せかけのものにすぎないと主張した。

2　パルメニデスは，論理的思考に基づいて，在るものは常に在ると説き，世界における変化や生成は見かけだけの現象にすぎず，存在するものはただ一つであって，生成も消滅もしないと主張した。

3　プラトンは，この世に生まれた人間の魂を，感覚の世界にわれ，イデアを忘却してしまったものと考え，イデアの世界はいかなる手段によっても知ることができないとする二世界説を唱えた。

4　マルクス・アウレリウスは，ローマ皇帝であると同時に，自らも哲学を修め，この世の現象は原子の不規則な動きによって構成されているという原子論の考えを発展させた。

解明POINT

▶自然哲学者

　万物の根源（アルケー，始源）を求めた。

|  |
| --- |
| ミレトス学派 |
| タレスをはじめ，ヘラクレイトス，エンペドクレス，デモクリトスなど |
| エレア派 |
| パルメニデス |
| ピュタゴラス派 |
| ピュタゴラス |

解明POINT

▶ソフィストとソクラテス

ソフィスト：弁論術

真理を相手に一方的に注入

　　　　↓↑

ソクラテス：問答法

問答を重ね，相手が真理を発見することを手助けする

解明POINT

▶「無知の知」の自覚

＊デルフォイの神託

　「ソクラテス以上の知者はいない」

　　　　

ソクラテス以上の知者を求め，政治家・詩人・技術者と問答

　　　　

「彼らは何も知らないのに知っていると思っているが，自分は何も知らないことを自覚している」

　　　　

デルフォイの神託は正しい

解明POINT

▶イデア論



▶プラトンの比喩

|  |
| --- |
| 洞窟の囚人♦人々は洞窟に映る影を唯一の実在と思い込んでいる |
| 二頭立ての馬車♦馭者（理性）が二頭立ての馬車（気概と欲望）をコントロールしている |
| 想起（アナムネーシス）♦人間の魂は，もともとイデアの世界に住み，現象界の美や善を手掛かりとしてイデアを想い起こす |

※洞窟のイドラ（ベーコンの命名，資質や環境に応じて個々の人間の身についた偏見のこと）

解明POINT

▶イデアと形相・質料

|  |  |
| --- | --- |
| プラトン | アリストテレス |
| イデア | 形相（エイドス）質料（ヒュレー） |
| 理性によってのみとらえることのできる永遠的・普遍的な「真の実在」 | 形相…イデアが内在化したもの。個物に内在する本質。質料…素材 |

解明POINT

▶二つの自然観

|  |
| --- |
| 目的論的自然観 |
| 事物が一定の目的に従い，変化しているとする自然観。アリストテレスが代表的。 |
| 機械論的自然観 |
| 自然を機械のように捉え，数学的な因果関係に従って捉える。ニュートンやデカルトが代表的。 |

解明POINT

▶愛の諸相

アガペー ：イエス

神の愛，神の無差別・無償の愛，

価値がないと見なされるものへの愛，下降的愛

　↓↑

エロース ：プラトン

完全なものへの思慕

上昇的愛

　↓↑

フィリア ：アリストテレス

親しき人が善くなることを求める相互的な愛（真の友愛があるなら正義は不要ともいう）

解明POINT

▶幸福についての考え方

|  |  |
| --- | --- |
| ピュタゴラス | 魂の調和と秩序。音楽と数学とにより得られる |
| ソクラテス | 福徳一致 |
| プラトン | 魂が全体として調和の取れている状態，肉体という牢獄から魂が解放されること |
| アリストテレス | 幸福こそが最高善で，観想的生活が最も望ましい。観想的生活は知性的徳と習性的徳とにより実現する |
| ゼノン | アパテイア |
| エピクロス | アタラクシア |

解明POINT

▶魂（プシュケー）の系譜

ピュタゴラス：魂の浄化

　　　　　↓

ソクラテス：魂への配慮

　　　　　↓

プラトン：魂の三分説

　　　　　↓

アリストテレス

|  |
| --- |
| 魂の領域 |
| 理性的領域↓知性的徳（思慮） | 感情・欲望的領域↓習性（倫理）的徳（勇気・節制）→　中庸 |

　　　　　↓

ゼノン（ストア派）

アパテイア（動揺しない心）

エピクロス

アタラクシア（心の平静）

解明POINT

▶ローマ時代のストア派

キケロ，セネカ，エピクテトス，マルクス゠アウレリウス（『自省録』）。ローマ帝国の理念とストア派のコスモポリテースが一致。